科目名	建築設計製図 I ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING												
科目名(英)	Α	RCHITE	CTURAI	DESIG	N DRA	AWING							
単位数		4単	单位		時間	<b>罰数</b>	6	0時間	担当者		古賀 俊光		
実施年度		2019	9年度		実施	時期		前期	実務家教員 担当科目		と計事務所にて と計業務に従事		
対象学科•学年	1	インテリア	゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙	ノ科 1年	F								
授業概要	<del> </del>	iる。	は, 製図	道具の	使い方						することが求めら 般図の種類と表		
授業形式	講	義: 4	△ 演	習:	0	実習:	3	実技:	※ 主た	cる方法∶O	その他:△		
	言語情報	知的 運動技能 技能	態度意欲	製図道				目材 用することが出	・ 出来るよ <b>う</b> にな	る			
学習目標	0							見方法・内容が					
(到達目標)	_	0						の配置図及び					
	L	0						の断面図及で			できる。		
		0		製図の	基本	こ則して	不道建梁物	の矩計図を作	・凶することか	できる。			
テキスト・教材 参考図書	ŧ	<b>超入門建</b>	築製図	(市ヶ谷	出版社	灶)			T				
	回数			;	授業項	頁目·内	容			授業外学修			
	1	製図用	具の説明	1					授業後、繰返し課題は次の授業	<b>削までに終わらt</b>	せること。		
	2 線の練習 授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。												
	3	文字の	練習						授業後、繰返し 課題は次の授業				
	4	建具記	号·表現						授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す	る。		
	5	木造2階		(1)配置	國、平	平面図		授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す	る。			
	6	木造2階	 皆建住宅	(2)断面	図		授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す	る。				
	7	木造2階	 皆建住宅	(3)立面	図		授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す	る。				
授業計画	8	木造2階	*建住宅	(4)基礎	姓(図、	、床伏図	]、小屋伏区	 ]	接護は次の投 授業後、繰返し 課題は次の授業	の練習を推奨す	る。		
	9	木造2階	·	(5)軸組	図				授業後、繰返し 課題は次の授業	の練習を推奨す	-る。		
	10	木造2階	· 建住宅	(6)矩計	図				授業後、繰返し 課題は次の授業	の練習を推奨す	る。		
	11	鉄筋コン	ノクリート	·造(1)酯	2置図	、平面区			接機は次の投 授業後、繰返し 課題は次の授	の練習を推奨す	る。		
	12	鉄筋コン	ノクリート	·造(2)剧	折面図				授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。		
	13	鉄筋コン	ノクリート	·造(3)立	拉面図				課題は次の授業授業後、繰返し	の練習を推奨す	-る。		
	14	鉄筋コン		·造(4)そ	の他	(各部詳	:細図等)		課題は次の授業授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。		
							細図等)		課題は次の授業授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。		
	(1)記	果題の提	出 (2)	課題の参	発表 上)•A	以上をT (80点り	下記の観点	・割合で評価す 点以上)・C(60					
											評価割合		
== /== - <del>-</del> ->-	L		課題			0	0				50%		
評価方法 	_	発:	表・作品				0				50%		
											_		
履修上の注意	Н	出席回数	が授業[	回数の2.	∕3IC	満たなし	い場合は、持	是出状況は関係	系なく単位を与	えない			

科目名	3	建築計画 I  Architectural planning and design I												
科目名(英)	F	٦rchitec	tura	l plann	ing and d	esign I								
単位数		2萬	単位		時	間数	30	時間	担当者		園 理恵子			
実施年度		2019	9年度	Ē	実施	<b>Б時期</b>	前	<b></b> 方期	実務家教員 担当科目		建設会社にて 計業務に従事			
対象学科•学年	-	インテリア	゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙	イン科	1年									
授業概要	1,	な役割を	建	葉が担	ってきたた	か、あるし	いは担う可能	性があるか、		深める必要が	れぞれにどのよう がある。例えば建			
授業形式	講	義: (	0	演習:	Δ	実習:	実	:技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△			
	言語情報			その他				目標						
	0	0					説明できる。		+ <i>/51+ +</i> +	¥1111 <b>-</b> 1 - 1 - 1	Li-ナフ			
学習目標 (到達目標)		0	$\perp$						本例を挙げて言 の相違点と特					
(2) Æ LI (187)	0	0	+-		建し仕七	<b>C</b> 集古住	七、てれてイ	の建築計画	の相達点と特	球を説明 (で	: ক			
	$\vdash$													
テキスト・教材 参考図書		初学者	の建設	——— 築講座	建築計画	———— 画(第三版		5出版社						
	回数					項目•内?	 容			授業外学修	 指示			
	1	1 がイダンス、計画と設計												
	2 住様式と住宅の変化 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと+後													
	_				   画•平面	 の類型				んでおくこと+復習				
	_					《配置計				んでおくこと+復習				
	-	戸建て						んでおくこと+復習						
	_	戸建て				《 平面の  《 客室の				んでおくこと+復習				
	-					<u> </u>			んでおくこと+復習					
授業計画	_	戸建て信				<b>»</b>			んでおくこと+復習					
	9	集合住	宅 団		<u> </u>	近隣住[	区倫理 》		教科書の該当範	が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	んでおくこと+復習			
	10	集合住!	宅 身	 長合住写	との種類	《集合住	宅の計画》		教科書の該当範	毎を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	11	集合住!	宅 身	 長合住写	との種類	《 低層類	集合住宅 》		教科書の該当範	が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	んでおくこと+復習			
	12	細部計画	画ノ		基本動作				教科書の該当範	が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	んでおくこと+復習			
	13	細部計画	画 オ	k回りの	 )寸法				教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	14	細部計	画彩	多動のた	とめの寸法	よ・階段と	 :傾斜路		教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	_	まとめ・								確認テストを実	施するので、復習して			
	講乳	」 義中の課:	題プl	レゼンテ	テーション、 点以上)・/	A(80点以		以上)•C(60	おくこと   		る。			
	$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$		··		言	語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
== / <b></b> ≥+	_		選期試 トテス		-	0	0				70%			
評価方法 	$\vdash$		ハナス 夏・レホ		-+	0	0				10%			
		課題プレ		-	レー		0				10%			
	F	VINE												
履修上の注意		必ずテキ: する。	ストを	しっかり	り読んでう	予習•復習	ますることを心	かがけ、学んた	ど分野の建築を	生実際に見学	やすることを推奨			

科目名	7	<b>建築材料</b> 2単位 時間数 30時間 担当者 集路 正巳												
科目名(英)														
単位数		2単	单位		時	間数	30	時間	担当者	1	集路 正巳			
実施年度		2019	年度	Ę	実施	<b>西時期</b>	前	 丁期	実務家教員 担当科目		建設会社にて 管理業務に従事			
対象学科·学年	1	インテリア	゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚ヺ	ドイン	·科 1年									
授業概要	信	使用する。 見野に、	材料	の特 つけ <sup>-</sup>	性を学び、通	適切な材料 築材料の	料を選択でき 基礎知識を	るようになる。	インテリアコー	-ディネータ-	双得する。建築に -1次試験合格を リート、鋼材等を			
授業形式	講	義: (	<b>O</b>	演 <sup>2</sup>	習: △	実習:	実	技:	※ 主た	-る方法:○	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能	態度 意欲	その他			<u> </u>	目標	Ē					
	0	0			多種・多様な	建築材料	4の種類を理	解し、その材料	料の性質、特征	數、使用部位	等を説明できる。			
学習目標		0			常に新しい木	材料、新製	品が生み出さ	れている建築	業界の現状を	把握し自ら情	報収集ができる。			
(到達目標)		0			インテリアコ	ーディネー	ーター1次試験	険の材料分野	の問題を正答	ドに導くことか	<b>べきる。</b>			
テキスト・教材 参考図書	礻	初学者の	建築	講座	<b>建築材料</b>	(第二版)	市ヶ谷出版	į.						
	回数	授業項目・内容 授業外学修指示 ・コマシラバス・授業の進め方の説明 ・建築材料の概要 <sup>教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</sup>												
	1	・コマンプハス・投耒の進め方の説明 ・建業材料の概要												
	2	木材の	生質					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
	3	木質系	材料					教科書の該当範	囲を事前に読ん	<b>んでおくこと</b>				
	4	鋼材/	非鉄	金属	と金属系建築	築材料		教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	5	鋼材/	非鉄:	金属	と金属系建築			教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	6	コンクリ	<u>ート</u> ,	/無	機質系ボート	製品		教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	7	コンクリ	—h,	/無	機質系ボート	製品			授業内容に係る		施するので			
授業計画	8	機能材料	料/	陶磁	 器製品				教科書の該当範	囲を事前に読ん	<b>んでおくこと</b>			
	9	その他の	の陶る	磁器		での確認			授業内容に係る		施するので			
	10	ガラス/	′プラ	スチ	ック建材		<u> </u>		復習しておくこと 教科書の該当範		んでおくこと			
		石材/							教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと			
						・のテクス=	チャーと素材	<u> </u>	教科書の該当範	囲を事前に読ん	<b>んでおくこと</b>			
							<u>/ ペットの施</u>		授業内容に係る		施するので			
								<u> </u>	復習しておくこと 授業内容に係る		施するので			
	14	壁紙/	<b>塗料</b>		畳/ここま	での確認	試験(2)		復習しておくこと 授業内容に係る		<b>佐オスの</b> で			
	15	復習	確認	テス	.F				復習しておくこと		元 9 るので			
	以上	を下記の	の観	点:害	引合で評価す	る。	定期試験(筆 上)・B(70点		点以上)•D(59	点以下)とす	·る。			
					1	語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
	定期試験     ©     O     70%       確認テスト     ©     O     30%													
評価方法														
履修上の注意	Н	出席が10	回に	満た	ない場合は	、定期試験	険の受験資格	各を与えない。						

科目名	Photoshop / Illustrator I  Photoshop / Illustrator I														
科目名(英)	F	hotosho	p / I	llustra	ntor I										
単位数		2単	单位		時間	間数	308	寺間	担当者		高山 裕明				
実施年度		2019	年度	Ę	実施	時期	前	期	実務家教員 担当科目		「ザイン会社にて 発デザイン業務に従事				
	/	インテリア	゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚ヺ	「インマ	斗 1年										
授業概要	ے ا	ノ能力) か Photosho	ヾ挙(- p / I	ずられ llustra	る。プレゼン itor はその〕	ィテーショ 重要なツ・	ンを行う際、i ールソフトでる	読みやすく見 ある。前期は	やすい資料を	デザインす or の基本技	(プレゼンテーショ る必要があり、 桑作を学ぶととも				
授業形式	講	義: 4	Δ	演習	l: 0	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△				
	言語 情報	知的 運動技能 技能	態度意欲		•				り目的に応じた選						
学習目標 (到達目標)	Ļ	0		-					操作を学び、資料化						
	0	0							行間・字間の設定 						
	0	0			75.761.7			7 11 2141 -1 2713	することができる。  かた視覚的効果を		ができる				
_+ <del>*</del> ++	Ť		P./=												
テキスト・教材参考図書							楽とインテリ 教科書』ほか	F 0) 1:0) D	notosnop+Illus	stratorナク-	ニック』『世界一わ				
	回数				授業項	項目·内容	容			授業外学修	8指示				
	1	Adobe1	dobeインストール  少しでもソフトに触れ、慣れておくこと  Justrator 基本操作 導入 Photoshopとの違いと文字入力  授業で習った内容は、復習し習得すること												
	2	Illustrate	or 基	本操	作 導入 P	hotoshop	との違いと文	字入力	授業で習った内容は、復習し習得すること						
	3	Illustrate	容は、復習しる	習得すること											
	4	Illustrate	or 基	本操	 作 オブジェ	クトの選	変形	授業で習った内	 容は、復習し	 習得すること					
	5	Illustrate	or 基	本操	作 色と透り	月度の設だ	 定		授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	6	Illustrate	or 基	本操	 作 オブジェ	クトの編	 集と合成、配	 置	授業で習った内	――――――――――――――――――――――――――――――――――――	習得すること				
		Illustrator 基本操作 線と文字の設定 授業内容に係る確認テストを実施す おくこと													
授業計画	8	確認テス	スト/	読みも	らすさの要素	書体と	フォント 文字	字組み	授業で習った内	容は、復習しる	冒得すること				
	9	見やする	きの多	要素	レイアウトの	基本ル-	ール		授業で習った内	容は、復習し習	習得すること				
	10	見やする	きの多	要素	配色の基本	ルール			授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	11	プレゼン	パオ	ベルの	作成 グリッ	バデザイ	ンの基本		授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	12	プレゼン	ハパネ	ヽルの	作成 グリッ	バデザイ	ンの応用		授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	13	CAD図i	面に	使える	テクニック	Illustrato	or への取り込	み	授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	14	CAD図i	面に	使える	テクニック	素材感0	D表現		授業内容に係る 復習しておくこと		実施するので、				
	15	確認テス	スト/I	llustra	ator の覚え <sup>・</sup>	ておきたい	い機能		授業で習った内	容は、復習しる	習得すること				
	以〕	上を下記(	の観	点·割	合で評価す	る。	<sup>-</sup> る。 (2)課題 L上)・B(70点		実施する。 点以上)・D(59	9点以下)と	する。				
言語情報 知的技能 運動技能 態度・										その他	評価割合				
			ヽテス			0	0				80%				
評価方法		課	題提	出		0	0				20%				
履修上の注意	ž	受業中の	 指示	:を聞る	 き落とさない	こと。課題	 題は指示され	<u> </u> た作業の正	└────────────────────────────────────	]提出を評値					

科目名	インテリアコーディネーション interior coordination														
科目名(英)	ir	nterior c	coordina	tion											
単位数		2単	单位		時間	間数	301	時間	担当者	i	福田 昌彦				
実施年度		2019	9年度		実施	時期	前	前期	実務家教員 担当科目		主宅会社にて 開発業務に従事				
対象学科•学年	1	インテリア	゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚゙゚゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙	ン科 1	年										
授業概要	13	D感性育原	成の必要 配して我か	があり. 「国の-	かつ不り	易流行の	仕組みを知るこ	ことが重要であ	る。この授業で	ま、これらの基	識、空間スケール 基本的な知識ととも ノス育成と初歩的				
授業形式	講	義: 4	△ 演	習:	0	実習:	実	技:	※ 主た	る方法∶○	その他:△				
	言語 情報	知的 運動 技能	態度意欲			ニィネートの	1担切したる名形	目標		1五の郷西な部	明することができる。				
学習目標	0	0							に整理しプランニン						
(到達目標)	0	0							メント別に正確に						
	0	0		10以_	上の名作権	奇子のデザ	イナー名と作品	について識別し、	かつ特徴を説明で	することが出来	<b>გ</b> .				
		0 0							-ディネートボードを						
テキスト・教材 参考図書	内」		フーネットワー	ク、「世.	界で一番	美しい建設	築デザインの碁				50の名作椅子案 「ジョン」、「新インテ				
	回数	授業項目・内容 授業外学修指示 講義①ガイダンス													
	1	講義①ガイダンス													
	2	2 講義② インテリアデザインの歴史的背景													
	3	演習②	ショッフ	゚゚・ブラ	ンドサー	ヴェイ		グループワークと	して実地調査	、提出物あり。					
	4	講義③	建材ト	レンド	既要解訪	ź									
	5	演習③	ポピュ	ラース・	タイルセ	グメント	プロット		提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。				
	6	演習④	コンテン	ノポラリ	ノスタイノ	レセグメ		提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。					
	7	演習⑤	カラー	コーデ	ィネート	手法			提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。				
授業計画	8	課題①	コーディ	ネート	シート制	作 リビ	ング		提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。				
	9	課題②	コーディ	ネート	シート制	作 ダイ	ニング		提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。				
	10	課題③	コーディ	ネート	シート制	作 ベッ	ドルーム		提出物あり。授業	時間中に完成と	出来ない場合は宿題。				
	11	課題④	-1 オリ	ジナル	コーディ	′ネートボ	ード製作		製作						
	12	課題④	-2 オリ	ジナル	コーディ	′ネートボ	ード製作		製作						
	13	課題4	-3 オリ	ジナル	コーディ	′ネートボ	ドード製作		製作						
	14	課題4	-4 オリ	ジナル	コーディ	′ネートボ	ドード製作		製作						
	15	課題④	-5 オリ	ジナル	コーディ	゚ネートボ	ドード製作		提出物あり。前期 成出来ない場合		了日17:00までに完				
	(2)		記成度・」	E確さ	・丁寧さ	を評価す		☆況(期限内提 以上)・C(60	是出) 点以上)•D(59	点以下)とす	ける。				
					言	語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合				
== /= + >+			・レポー	· <b>卜</b>		0	0				20%				
評価方法			題作品 出状況			0	© ©				30%				
	H	1,62	шуул				•				30%				
			, , , , , , , , , , , ,		·	n	<b></b>	\=							
履修上の注意	宿匙	夏・レポー	-トを合え	つせて	2つ以上	未提出、	または課題化	その通りとする 乍品を未提出 -トフォン使用	の者は不合格	らとする。					

科目名	7	建筑:	—— } };	—— 車	π										
		建築計画 Ⅱ  Architectural planning and design Ⅱ  2単位 時間数 30時間 担当者 中園 理恵子													
科目名(英)	<u> </u>				anning					صلع وال الله					
単位数	<u></u>	2	単位		4	時	間数	30#	寺間 ————	担当者	·	園 理恵子			
実施年度		2019	9年月	度		実が	<b>色時期</b>	前	期	実務家教員 担当科目	1	0			
対象学科・学年		インテリア													
授業概要	かあ買って	か、 あるいは担 <sup>っ</sup> 貢献	!う可能 考察す	能性がる すること	あるか、 とが望ま	、各自で!	思考を深める	る必要がある。例 ち教育施設(幼科	えば建築の歴5	史をふりかえり、野 や外部空間、自然	見在の環境問題に	に建築がどのように 関係を学ぶ。			
授業形式	講	義:	0	演	習:	Δ	実習:	実	技:	※ 主た	-る方法∶○	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能				<u> </u>			目標	<u> </u>					
	0	0	_	<del> </del>				を説明できる							
学習目標 (到達目標)	0	0	+	+				査・研究して		 + 7 辛士 た 右:	<del></del>				
、列左口1水/	0	0	-	+	ニオレハ	ひらい1	任芸情务!	に心しに建業	計画を悮糸	する意志を有 <sup>っ</sup>	<sup>9</sup> ත				
	$\vdash$		+	+	+										
 テキスト・教材		±=====================================	<u> </u>		- <del> 7:</del>	+ ^6 = L 7	————— иг								
参考図書		初字石	の娃	梁舑	<u>)</u> 坐 短		画(第三版	., ., ., .,	出版社 						
	回数		授業項目・内容 授業外学修指示												
	1 がイダンス														
	2	幼稚園	•保7	育所		幼	か	遷		教科書の該当節	で囲を事前に読 <i>を</i>	んでおくこと+復習			
	3	幼稚園	•保7	育所		幼	か 稚園の計	画		教科書の該当範	ーー で囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	4	幼稚園	•保7	育所		 各	室計画			教科書の該当節	 徳囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	5	小学校	-中章	学校		小	、学校·中:	学校の変遷	_	教科書の該当節	 色囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	6	小学校	-中章	学校		学	校の計画			教科書の該当範	- 0囲を事前に読 <i>A</i>	んでおくこと+復習			
1m 4lk = 1, 11.	7	小学校	-中章	学校		校	き舎の計画			教科書の該当範	ー 位囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
授業計画	8	小学校	-中章	学校		新	しい教育	形態への対応	 ប៉	教科書の該当範	 0囲を事前に読 <i>A</i>	んでおくこと+復習			
	9	外部空	間の	)把握	<u>.</u>	3	建築物とダ	小部空間		教科書の該当節	 色囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	10	外部空	 間の	把握	1			の認識方法		教科書の該当範	 6囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	11	外部空	間の	計画	 j手法		 外部空間(	のスケール		教科書の該当範	 0囲を事前に読ん	んでおくこと+復習			
	12	外部空	間の	計画	 j手法		都市の通道	 過空間		教科書の該当	- 0囲を事前に読 <i>F</i>	んでおくこと+復習			
	13	外部空	 間の	計画	 j手法		都市の広り	 場		型 教科書の該当範	 0囲を事前に読 <i>F</i>				
	14	外部空	間の	計画	 j手法	1	住宅地のタ	 外部空間		教科書の該当範	 0囲を事前に読 <i>F</i>				
	_			-											
		15 総括													
	言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合										評価割合				
			2期記				0					80%			
	<u> </u>		小ティ				0			0		10%			
評価方法	宿題・レポート ◎ 10%									10%					
	_					+									
	$\vdash$					+									
						+									
履修上の注意															

科目名	3	建築構造力学 I												
科目名(英)														
単位数		2単	単位		時	間数	30	時間	担当者		古賀 俊光			
実施年度		2019	9年度	Ę	実施	施時期	前	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科•学年	1	インテリア	<b>′</b> デサ	<b>ドイン</b>	科 1年									
授業概要	1	多くの人だ	が建物	物の	構造強度に	ついての	関心も強くな	っている。建物	、天災による。 勿の機能を保っ 本となる力の	てる構造を作	書が起きており、 るためにも建築 こつける。			
授業形式	講	義: (	0	演習	習: △	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:O	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能		その他				目標	•					
	0	0	-	$\bigsqcup$				拿することがて						
学習目標 (到達目標)	0	0	-					ることができる を立てることか	- <del>-</del>					
(SIZE III)	0	0	-	$\vdash$			することがて		· Cさる。					
	0	0					くことができ							
 テキスト・教材			-11				11-22 22							
参考図書	٦	デ芸出版	.在	<b>凶</b> 記	やさしい様	第			ı					
	回数				授業 ————	・ 項目・内和	容 —————			授業外学修	指示 ————————————————————————————————————			
	1	基礎数章	学テ <i>ブ</i>	スト					# 1 + 0 = 1 v m		b /= l			
	2	んでおくこと												
	3	力の分削	解						教科書の該当範					
	4	カのモ-	ーメン	ハ				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと				
	5	確認テス	スト(	1),7	荷重・力学も	Eデル		授業内容に係る おくこと	確認テストを実	施するので、復習して				
	6	カのつり	り合し	۸,				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと				
100 484 21	7	単純梁の	の反	力計	算(1)			教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと				
授業計画	8	単純梁の	の反	力計	算( <b>2</b> )				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	9	片持ち乳	梁、引	長り出	し梁の反力	]			教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	10	単純ラー	ーメン	クの反	 [力				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	11	確認テス	スト(:	2)					授業内容に係るおくこと	確認テストを実	施するので、復習して			
	12	単純梁の	の応	力(1	)				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	13	単純梁の	の応	力(2	2)				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	14	単純梁の	 の応	 力(3	3)				教科書の該当範	5囲を事前に読ん	んでおくこと			
	15	確認テス	スト(:	 3)総	合問題				授業内容に係るおくこと	確認テストを実	施するので、復習して			
	(3)宿	言題・レホ	ポート	を数	回実施する 90点以上) 	。以上を <sup>⁻</sup> ・A(80点以	下記の観点・	割合で評価す	中で小テスト		ける。			
											評価割合			
== /== - <del></del> >+-	L		関試して			0	0				40%			
評価方法 			トテス ・レオ			 O	0		0		40% 20%			
		旧咫		N 1			•		•		20/0			
履修上の注意	Ь	出席が10	)回に	満た	ない場合は	、定期試	 験の受験資	各を与えない。						

科目名	3	建築一般構造 I													
科目名(英)															
単位数		2単	单位		B	間数	30	時間	担当者	ī	古賀 俊光				
実施年度		2019	9年度	ŧ	実	施時期	育	<b></b> 前期	実務家教員 担当科目						
対象学科·学年	1	インテリア	゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚	デイン	·科 1年										
授業概要		建築構造 こいるかる			の成り立ち	であり、建	築物の各部	と全体が、どの	りような材料を	用いて、どの	)ように形造られ				
授業形式	講	義: (	)	演	習: △	実習:	美	!技:	※ 主た	る方法:〇	その他:△				
	言語情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他	木材と木質	<b>材料につ</b>	いて説明する	目標ることが出来る							
学習目標	0	0			木材の接て	合(仕口、約	継手)の名称	と特徴につい	て説明すること	:が出来る。					
(到達目標)	0	0			-				ついて説明す	ることが出き	<b>キ</b> る。				
	0	0					lをすることか 								
	0	0			木造の各語	部の構造に	こついて説明	することが出	来る。						
テキスト・教材 参考図書	礻	別学者の	建築	·講座	至 建築構造	市	ケ谷出版								
	回数				授美	<b>噗項目•内</b>	容		ŧ	受業外学修	指示				
	1	建築物の	建築物の構成要素、構造の安定と不安定 建築物に作用する外力とその伝達メカニズム 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと												
	2	建築物	に作	用す	る外力とそ	の伝達メナ									
	3	木質構造	造の	概要					教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	4	木材と	ト質	材料				教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと					
	5	木材の	接合	(仕口	口、継手)			教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと					
	6	木材の	接合	(釘、	ボルト、金	物)		教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと					
	7	軸組(1	)					教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと					
授業計画	8	軸組(2	)						教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	9	壁倍率。	と壁	量					教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
	10	小屋組·	•確認	忍テス	<u>ر</u>					確認テストを実	施するので、復習して				
	11	床組						おくこと 教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと					
		枠組壁	構法						教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
					艮、床、階段	<del>,</del> )			教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
					天井、開口				教科書の該当範	囲を事前に読ん	んでおくこと				
		構造I(				нь н				確認テストを実	施するので、復習して				
	(1)元 (3)宿	上 と期試験 a題・レオ	i(筆i	記)を を数		。以上を「	下記の観点・	割合で評価す	<sub>おくこと</sub>  中で小テストを <sup>-</sup> る。 点以上)・D(59						
					-	言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合				
			期討			0	0				40%				
評価方法			・テス			0	0				40%				
		宿題		-	-	0	0		0		10%				
		発:	表・作	FΦ					0		10%				
履修上の注意	Н	出席が10	回に	満た	· ない場合に	は、定期試	験の受験資	各を与えない。	)		1				

科目名	3	建築法規 I Building regulations												
科目名(英)	В	Building r	egula	ation	s									
単位数		2萬	单位		時	間数	30	時間	担当者	徳	田 美穂子			
実施年度		2019	9年度	ŧ	実旅	時期	育	<b></b>	実務家教員 担当科目		0			
対象学科•学年	1	ンテリアテ゛+	ナイン	科	1年									
授業概要		建築法規 ではまずま で学んでし	条文	の読	を通して、建 み方・体系・	築に関す 用語の定	る基本的な	考え方や建築 かて、具体的な	の在り方につ は建築基準(面	いて学習する 積・採光・換	る。建築法規 I 気・高さ)につい			
授業形式	講	義: (	)	演	習:	実習:	美	技:	※ 主た	:る方法:○	その他:△			
	言語情報	知的 運動 技能 技能	態度意欲	その他				目標	5					
	0	0	<u> </u>						説明することがで					
学習目標 (到達目標)	0	0						C. 7 L C 11/7.	することができ					
(判注口标/	0	0	_						説明することか					
		0	0		天际の改訂す	すで心足し	て、谷日の刊	別で法节順寸0	<b>Dプランニングカ</b>	<b>いできる。</b>				
テキスト・教材	-	 建築関係	 玄注:	 会隹	· 注会編									
参考図書		<b>注未</b> 因17	K/A	<del>क</del> ग	次 门 州州									
	回数				授業	項目·内	容			授業外学修	指示			
	1	建築基	準法	らの根	既要				事前連絡の該当	4範囲を事前に−	一読しておくこと。			
	2	条文の読み方・法令の体系 次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。												
	3	用語の	定彰	ŧ(1)				次週の該当範囲	目を事前に一読し	<b>、ておくこと。</b>				
	4	用語の	定彰	<u> </u>				次週の該当範囲	目を事前に一読し	<b>、</b> ておくこと。				
	5	用語の	定彰	<b>E</b> 3				次週の該当範囲	目を事前に一読し	ておくこと。				
	6	用語の	定義	<b>4</b>				次週の該当範囲	目を事前に一読し	 、ておくこと。				
	7	確認テ	スト					次週の該当範囲	目を事前に一読し					
授業計画	8	面積の	算定	<u> </u>					次週の該当範囲	目を事前に一読し	.ておくこと。			
	9	面積の	算定	<u> 2</u>					次週の該当範囲	目を事前に一読し	<b>、</b> ておくこと。			
	10	高さの	算定	等					次週の該当範囲	目を事前に一読し	.ておくこと。			
	11	居室の	採光	<u>(1</u>					次週の該当範囲	目を事前に一読し	.ておくこと。			
	12	居室の	採光	ί2					次週の該当範囲	目を事前に一読し	ておくこと。			
	13	居室の	換気						次週の該当範囲	目を事前に一読し	ておくこと。			
	14	居室の	天爿	おおり	*·床の高さ				次週の該当範囲	目を事前に一読し				
	15	確認テ	スト						定期試験に向け	 た学習を徹底し	 ておくこと。			
	以上	上を下記(	の観	点语	削合で評価す 90点以上)・ 	¯る。 A(80点以	以上)・B(70点		(3)定期試駁 点以上)·D(5		-る。			
											評価割合			
5	<u> </u>		期試	_	\D &\	0	0				80%			
評価方法		受講態度			况寺)	©	0		0		10%			
			ヽテス	<u> </u>		<u> </u>	0				10%			
			-											
履修上の注意	出	出席が10回	回に清	島たな	い場合は、定	期試験の	受験資格を与	えない。						

	_													
科目名	<u>_</u> '	JWCAD I  jwcad exercise  2単位 時間数 30時間 担当者 吉田 麻美												
科目名(英)	j	wcad exe	ercise	3										
単位数		2単	<b>並</b>		時	間数	30	時間	担当者		田麻美			
実施年度	_	2019	9年度	<u> </u>	実施	時期	Ē	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科·学年		インテリア	<b>゚</b> デザ	デイン <sup>®</sup>	科 1年									
授業概要	F	用紙サイ	ズ・尺	₹度•	操作・各種詞 寸法など製[ ンクリート造 <i>0</i>	図知識の	習得	方法の習得	得					
授業形式		義:		演習	習: 0	実習:	事	€技:		:る方法:〇	その他:△			
	言語情報		態度意欲	その他				目標						
	L	0 0	Щ	1 1					ースを行うことだ					
学習目標	0		$\coprod$						さった正確な作					
(到達目標)	<u></u>	0 0	$\perp \perp \mid$	-					図・断面図を作り	成することか	できる			
	<u> </u>	0 0	1					設定を行うこと ,	:が出来る。					
	<del></del>	00	Ш	Ш'	レイヤの設定	定、かさケ	汁けが出来る	) 0						
テキスト・教材 参考図書	Į į	初めての	建築	CAD	: 学芸出版社	±								
	回数	:			授業	項目·内容	 容	<u>-</u>	į	授業外学修指	<b>計示</b>			
	1	JW-ca	adの∄	基本	操作(1)線分	<b>分∙消去•</b> ∮	矩形•中心約	₹複線						
	2	JW-ca	adの‡	基本	操作(2)円・	円弧・接口	ーー・ 円・接点・点	-	前回の復習を行う	うこと				
	3													
	4	.IWーcadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測 前回の復習を行うこと												
	Ŀ	ルー・カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・												
	-				·住宅)①图作 ·住宅)②配置	前回の復習を行う	うこと							
	Ŀ				住宅)②いて		—————————————————————————————————————	前回の復習を行う	うこと					
授業計画	-				住宅)④1階			前回の復習を行う	うこと					
	H				住宅)⑤2階		DIF#&	前回の復習を行う	うこと					
	Ľ				住宅)⑥建築				前回の復習を行う	うこと				
	11	作図課是			, -, -, -,				前回の復習を行うこと					
		<i>2</i> r	—— 顆2(*	供筋	コンクリート	——— 構告)②1			前回の復習を行う	うこと				
	<u> </u>								前回の復習を行	うこと				
	$\vdash$	1			コンクリート			<u>:</u> 成 ————	前回の復習を行う					
	H				コンクリート				前回の復習を行う					
	15	作図課題	題2()	鉄筋:	コンクリート	構造)⑤圏	折面図作成・	印刷設定	p					
	以上	上を下記の	の観点	点・割	引合で評価す	<sup>ト</sup> る。			<sup>-</sup> る。 (3)期限内 点以上)・D(59					
				_	言	語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合			
		課	題提	:出			0		0		30%			
評価方法	Ē	課	題作	品			0	0			60%			
	Ī.	提	出状	.況			0		0		10%			
	Ē													
	<u></u>						<u> </u>		<u> </u>					
	<u> </u>													
履修上の注意	1	出席が2/	/31こ	満た	ない場合は	、単位を記	認めない。							

科目名	-	デザイン演習													
科目名(英)															
単位数		2萬	単位		時	間数	308	時間	担当者	ŧ	公井 知子				
実施年度		2019	年度	Ę	実施	時期	前	ij	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	-	インテリア	゚゚゚゙゙゙゙゙゙゚ヺ	ゲイン科	1年										
授業概要	金ノ	沿筆デッ ペースの	サン? 基本	を中心に を学ぶ。	こもののII 、(後期の	Eしい見方 設計製図		コーディネータ	7—2次対策)						
授業形式	講	義: (	)	演習:	Δ	実習:	- 実	 技: -	※ 主 <i>t</i> :	-る方法:O	その他:△				
	言語 情報	知的 運動 技能	態度 意欲	その他		I	1	目標	Ę						
	0	0	0	自	分の発想	・考え方を	を形に表現で	きる。							
# 35 C 15		0	0	鉛	筆デッサン	ンで正しく	ものの形を表	現できる。							
学習目標 (到達目標)		0	0	13	ンテリアコ	ーディネ-	ーター2次試験	倹合格レベル	のパース表現	見が出来る。					
		0	0	ポ・	ートフォリ	才の作品	が制作できる								
					_	_									
テキスト・教材 参考図書		『パースの描き方』石原達也著 授業項目・内容 授業外学修指示													
	回数	授業項目・内容   授業外学修指示													
	1	動機付	け	パース	の定義	立方体を		課題は次の授業までに終わらせること。							
	2	鉛筆デ	ッサン	1 立	方体の視	(9面)	授業後、繰返し	へいていた。 の練習を推奨す きまでに終わらせ	る。						
	3	鉛筆デ	ッサン	(2) 直	方体・円材		授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。						
					物スケッラ		授業後、繰返し	tまでに終わらせ の練習を推奨す	る。						
					<u>************************************</u>		≹までに終わらせ の練習を推奨す								
						課題は次の授業授業後、繰返し	ŧまでに終わらせ の練習を推奨す								
					パースの指	<b>人</b> )		までに終わらせ	さること。						
授業計画		パース							課題は次の授業授業後、繰返し	美までに終わらせ	さること。				
				-	-ム 下描				課題は次の授業	美までに終わらせ	さること。				
	9	パース	4 ^	ベッドル-	-ム イン	キング・君	<b>手彩</b>			までに終わらせ	さること。				
	10	パース	5 ^	ベッドル-	-ム イン	キング・ネ	<b></b>		授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す 僕までに終わらせ					
	11	パース(	ט (6	ビングル	レーム(下	描き)			授業後、繰返し課題は次の授業	の練習を推奨す までに終わらせ					
	12	パース(	<b>⑦</b> リ	ビングル	レーム T	「描き⇒イ	(ンキング		授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。				
	13	パース	8) ア	クソメ・	アイソメ①	)			授業後、繰返し 課題は次の授業	の練習を推奨す	る。				
	14	パースの	- 9)ア	アクソメ・	アイソメ②	<u> </u>			授業後、繰返し	の練習を推奨す	る。				
		課題提		-					課題は次の授業 最後の授業まで		-				
		—						削合で評価す 以上)・C(60	」 る。 点以上)・D(5	9点以下)とす	⁻る。				
					言	語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合				
			題提			0	0		0		50%				
評価方法			発表	<u> </u>		0	0		0		50%				
	ŀ	出席回数	が揺	業回数	D2∕3I:	ニ満たな1.	· ・場合は、単位	 位を与えない	<u>I</u>	<u> </u>	I				
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			<u>کر</u> و ټ.,	<u>~ы</u> Ж	-7-7 01.	-11-11-00	2 H 10 ( +								

科目名	•	色彩字	<u></u>											
科目名(英)	(	Color												
単位数		2単	单位		時	間数	30	時間	担当者		櫛田			
実施年度		2019	年度	Ę	実施	5時期	前	<b></b> 前期	実務家教員 担当科目	l	0			
対象学科•学年	-	インテリア	゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	ゲイン科 つ	年									
授業概要	1 1 t	す。 色彩学の Nます。	基本	的な知識	と、色を	を扱うテク	ニックを身に		コーディネート		に学んでいきま ることを目標として			
授業形式	講	義: (	)	演習:	Δ	実習:	- 実	技: -	※ 主た	:る方法:〇	その他∶△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能の対象を表現しています。	態度意欲	色の 光の 混色 色の	三属性 性質か を基に 感情効	を挙げ、1 ら、なぜも 、目的の1 果や色の	色を系統立て 色が見えるの 色を作ること )イメージから	ができる。 。、色の組みも	。 ことができる。 ることができる。 合わせを提案す		きる。			
				•				ることができる	<b>5</b> .					
テキスト・教材 参考図書		カラーデザイン検定公式ガイド【感性編】、配布資料、画材 日本の色世界の色、日本の伝統色、色で巡る日本と世界、カラーイメージスケール 授業項目・内容 授業外学修指示												
	回数	3200 1 1210												
	1	カラーコーディネートについて(導入)、色相環と補色残像 テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと												
	2	マンセル	レ色ホ	1環、三属	性につ	いて		テキストの該当館	節囲を事前に読	えんでおくこと				
	3	マンセル	レ表色	色系、光の	性質			テキストの該当館		えんでおくこと 内容の復習をしておく				
	4	嗜好色	上嫌系	 悪色				テキストの該当館	節囲を事前に読	えんでおくこと				
	5	色の心理	理効.					テキストの該当館	節囲を事前に討					
		住空間と						テキストの該当領	節囲を事前に読					
	بً	配色演							小テスト実施の7 テキストの該当筆		内容の復習をしておく			
授業計画				左曲眼	<i>p</i> .				テキストの該当					
	8			色空間と	巴				小テスト実施のプラキストの該当		内容の復習をしておく			
	9	色の共原							小テスト実施の	ため前回授業内	内容の復習をしておく			
	10	配色演習	習						テキストの該当館					
	11	ファッシ:	ョンと	:肌色							内容の復習をしておく			
	12	色と記憶	急、注	目度の高	い色				テキストの該当館					
	13	色の名詞	前、カ	ラーユニ	バーサ	ルデザイ	ン		テキストの該当館 小テスト実施の7		えんでおくこと 内容の復習をしておく			
	14	過去問題	寅習	、解答と解	説				検定範囲全体の	復習をしておく	こと			
	15	総まとめ	ラテス	<b>&lt; -</b>					検定範囲全体 <i>の</i>	)復習をしておく	こと			
	以」	とを下記(	の観	総まとめ 点・割合で 、S(90点)	評価す	る。		の小テスト i以上)・C(60	(3)課題の提 点以上)・D(59		する。			
					言	語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
		総ま	<u></u> දුන්-	テスト		0	0				70%			
評価方法	小			確認テス	<b>h</b> )	0	0				10%			
			課題			0	0				15%			
		受講	妥勢	・出席					0		5%			
履修上の注意	Ŀ	出席回数	が授	業回数の	2/31	に満たなし	       場合は、単	_ 位を与えない						

科目名	ŀ	ビジネスマナー I													
科目名(英)	Е	Business	man	ner											
単位数		2単	单位			時間数	30	)時間	担当者	津	嘉山 佳子				
実施年度		2019	9年度	Ŧ	E .	実施時期	実務家教員 担当科目								
対象学科・学年	4	全学科対	学科対象・1学年												
授業概要	丿 ヺ	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。													
授業形式	講	義: (													
	言語情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他		目標									
学習目標	0	○ 立居振る舞いを身に付ける         ○ 社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。													
(到達目標)		0													
		0													
			0		基本的なビ	ジネスマナ-	ーを身に付け、振る	る舞うことができる	D <sub>o</sub>						
テキスト・教材 参考図書		・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回~43回													
	回数				授	業項目・Γ	内容			授業外学修	指示				
	1	社会人と	社会人としての心構え― 社会と組織・仕事と成果 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと												
	2	基本動作	基本動作 立居振る舞い — 第一印象について 基本動作練習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと												
	3	言葉遣い	言葉遣いの基本① — 話の仕方・話の聞き方 敬語の基本 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと												
	4	言葉遣い	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	しでおくこと											
	5	言葉遣い	言葉遣いの基本③ — よく使われる接遇用語・クッション言葉 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと												
	6	サービス	接遇	検定	 対策 —	必要とされ	 る用件		教科書の該当軍	 徳囲を事前に読ん	しでおくこと				
150 AM = 1	7	サービス	.接遇	検定		従業用件・	専門知識・専門	 用語	専門用語確認っ	テストを実施する	ので、復習をしておく				
授業計画	8	サービス	接遇	検定		専門用語確	推認テスト・一般	知識	一般知識確認す	テストを実施する	ので、復習をしておく				
	9	サービス	接遇	検定	対策 —	一般知識確	笙認テスト 用語	について復習	教科書の該当筆	で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	しでおくこと				
	10	交際業務	51 -	_ _ ビ	ジネス文記	書の種類・ネ	±外文書のスター	イルについて	教科書の該当軍	<b>節囲を事前に読</b> ん	しでおくこと				
	11	交際業務	62 -	— 社	内文書の	スタイルにつ	ついて 文書作品	ばに必要な用語	教科書の該当軍	<b>范囲を事前に読</b> ん	しでおくこと				
	12	交際業務	第3 -	— 封	筒の書き	方 縦書き・	・横書き 返信は	がきの書き方	教科書の該当軍	<b>范囲を事前に読</b> ん	しでおくこと				
	13	交際業務	54 -	— 郵	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	について(j	適切な郵送方法	が選択できる)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
	14	交際業務	务5 -	— 冠	が   婚葬祭に	ついて	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと								
	15	学習のま	ことめ	_	今期学ん	だことの復	習、理解を深め	<b>3</b>	定期試験に備え	て、復習をして	おくこと				
	以」	Lを下記(	の観	点:割	割合で評値	西する。	(2)定期試験 i以上)・B(70g			9点以下)とす	· I				
				b.E.A		言語情報		運動技能	態度•意欲	その他	評価割合				
<b>郭</b> 年十十			期試			0	0				75%				
評価方法		態度・	トテス 音 効		度	0	0		0	0	15%				
		· 心及	~E IV	СШ	п						10/0				
履修上の注意	E	出席が10	回に	満た	:ない場合	は、定期	試験の受験資	格を与えない	0						

	_		_													
科目名	-	就職	実績	务 ]	Α											
科目名(英)																
単位数		1 単	单位			時	間数		5時間	担	当者		各担任			
実施年度		2019	9年月	隻		実施	時期		家教員 当科目							
対象学科・学年	-	インテリフ	アデ	ザイン	ノ科	1年										
授業概要		就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する														
授業形式	講	義: (	)	演 <sup>2</sup>	習:		実習:		実技:	*	主たる	5方法:〇	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能		その他			I	L	目相	票						
	0				就職	就職活動に必要な自己分析を行うことができる										
学習目標、	0		0			的な面										
(到達目標)		0					など、就	ケーショ	シ知識	がある						
	0	0	-					切っている								
		0			学校:	求人を	利用する	るための条	:件を知ってい	გ						
テキスト・教材 参考図書	Ė	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック														
	回数					授業	項目•内:	容			授	受業外学修	指示			
	1	就職活	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る													
	2	就職活を知る	沈職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識													
			<u>を知る</u> 就職活動における心構え / 業界で必要なサービスとは													
	4	就職活	就職活動における心構え / 業界で必要なスキルとは													
			就職活動における心構え / 未外で必要なスキルとは 就職活動における心構え / 作品集の価値とは													
	6	就職活														
授業計画	7	就職活														
	8	す														
	9															
	10															
	11															
	12															
	13															
	14															
	15															
		出席状態	況	(2)5	受講態	態・意	欲 (3)	課題の提	出 以上の内	容を総合	合的に判	断し R評	価(可、不可)で			
						言	語情報	知的技能	能 運動技能			その他	評価割合			
			席划							(			60%			
評価方法		受講			<b></b>		0	0					30%			
		課題	園の∙	提出			0	0					10%			
						-										
						-										
						-										
履修上の注意	6	0%出席	を単	单位作	寸与条	件とす	る									

1															
科目名	GCB I														
科目名(英)	Global Citizen Basic I														
単位数			1単位	立		時間数	担当者		各担任						
実施年度		2	019年	度		実施時期	実務家教員 担当科目	l							
対象学科•学年	£	全学科対象・1学年													
授業概要	7	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB I では、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。													
授業形式	講	講義: O 演習: 実習: 実技: ※ 主たる方法: O その他: △													
	言語 情報			態度 その	の他	1		目標	 E F						
	0	0	(	トャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る											
学習目標	0	0	(	0	「怎	袋謝心」が人間力(	の根底にある。	ことを知る							
(到達目標)	0	0	(	0	人	間力を高めるため	のマナーの重	重要性に気づ	<						
テキスト・教材 参考図書	グローパルシティズンベーシック I テキスト														
	回数					授業項目·内			授業外学修	指示					
	1	グロ-	ーバノ	レシラ	ティズ	ンを目指そう グロ	゙ズンとは	テキストを熟読し	.ておく						
	2	「協働	動」の	態度	 を持つ		テキストを熟読しておく								
	3	より! 重要		間	関係の	構築に向けて	テキストを熟読しておく								
授業計画	4			本質	I 思	いやり・気配りの	テキストを熟読しておく								
	5	マナ・	<b>一の</b> 2	本質	Ⅱ 相	手に敬意を表する	テキストを熟読しておく								
	6		ーバノ	レ・シ	ティス	 、ンとしての日常	テキストを熟読しておく								
	7	グロ-		レ・シ	ティス	 、ンとしての目標	テキストを熟読しておく								
	Ŀ	Ť					テキストを熟読しておく								
評価方法	8 グローバル・シティズンとしての「志」に向けて       アキストを熟読しておく         (1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判する。         言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割・         出席状況       ⑤         受講態度・意欲 〇       〇         課題の提出 〇       〇         10%														
履修上の注意	6	0%出	は席を	単位	:付与:	条件とする									

	_															
科目名	1	検定対策ゼミ I A (インテリアコーディネーター)														
科目名(英)																
単位数		2 単	单位			時間数	308	時間	担当者	ž	赤星 亜美					
実施年度		2019	9年度	<del></del>	身	実務家教員 担当科目	l									
対象学科・学年	1	インテリア	 ゚゚゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゚゚	デイン	 科 1年				<u> </u>							
授業概要	5	も、色彩、	、家具	具、ウ	ィンドウト	リートメント	、住宅設備、原	照明、消費者			識の中で 西洋 習する。またイン					
授業形式	講	義: (	0	演習	≣:	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△					
	言語 情報	知的 運動 技能 技能		その他		目標										
	0	0				/ンテリアの歴史と時代ごとの特徴や代表作を把握している										
学習目標 (到達目標)	0															
(到连日保)	0	0	<u> </u>	-	消費者関連法規をの重要事項・留意事項を説明できる ○ インテリアコーディネーターー次試験に合格する											
			-	0	インテリナ	/コーナィ <del>ル</del>	ーダーー火試	,験に合格する	<u> </u>							
 テキスト・教材		<u>                                     </u>		<u> </u>	b - 12 - 42	>+女 + <del>/-</del> / L	(よう) かに	ロマコーディ	カー・塩土目	155%度如力	P( <b>L</b> - <b>T</b> )					
参考図書		インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター過去問題徹底研究(上・下) インテリアコーディネーターテーマ別用語辞典														
	回数															
	1	西洋の風	歴史					教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章2 1~9)を 事前に読んでおくこと								
	2	西洋の原	 歴史				教科書(合格教本上巻)の該当範囲(3章2 10~18) を事前に読んでおくこと									
	3	色彩と道	告形				教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章1)を事前に読んでおくこと									
	<u> </u>	色彩と道							教科書(合格教本上巻)の該当範囲(5章2)を事前に							
		家具	<u> </u>						読んでおくこと 教科書(合格教本上巻)の該当範囲(6章1~2)を事							
		家具						前に読んでおくこと 教科書(合格教本上巻)の該当範囲(6章3~4)を事								
		タインド	<u> </u>	11 1	ا. ۱۷				前に読んでおくる 教科書(合格教)		範囲(7章1)を事前に					
授業計画	<u> </u>		•	-					読んでおくこと 教科書(合格教本上巻)の該当範囲(7章2)を事前に							
		ウィンド			メント				読んでおくこと 教科書(合格教本上巻)の該当範囲(8章1~2)を事							
	-	各種工し							前に読んでおくこと 教科書(合格教本上巻)の該当範囲(8章3~4)を事							
		各種工し		ト			前に読んでおくこと 教科書(合格教本下巻)の該当範囲(12章3)を事前									
		住宅設位	備				教科書(合格教本下巻)の該当範囲(12草3)を事制 に読んでおくこと 教科書(合格教本下巻)の該当範囲(13章1~2)を事									
	12	照明					前に読んでおくこと									
	13	照明					教科書(合格教本下巻)の該当範囲(13章.3)を事前 に読んでおくこと									
	14	消費者	関連	法規					教科書(合格教本下巻)の該当範囲(15章23)を事前 に読んでおくこと							
	15	まとめ							授業内容に係る おくこと	確認テストを実	施するので、復習して					
	以上	上を下記(	の観	点·割	合で評価	<b>逝する。</b>			。(3)定期試縣 点以上)•D(59							
						言語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合					
== t== - <u>t-</u> > <u>t</u> -			期記			0	0				80%					
評価方法			トテス			0	0				10%					
		1白 起	<u>'・レ゙</u>	ポート			0	0			10%					
履修上の注意																

I															
科目名	数学ゼミ I A														
科目名(英)															
単位数		1 <u>i</u>	単位			担当者		吉田麻美							
実施年度		201	9年月	复	3	実施時期	育	<b></b>	実務家教員 担当科目	l .					
対象学科·学年	1	インテリアデザイン科 1年													
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す														
授業形式	講	講義: Δ 演習: O 実習: 実技: ※ 主たる方法: O その他: Δ													
	言語 情報	知的 運動技能 技能				•	·	目標	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##						
	0														
学習目標	0	0			1次方程:	式の基本問	題が解ける								
(到達目標)	0	0			比例と反	比例の基本	問題が解け	<u>る</u>							
	0	○ 図形に関する基本問題が解ける													
テキスト・教材 参考図書															
	回数				授		授業外学修	指示							
	1	【演習問	<b>引題】</b>	正位	の数と負の	 D数、いろい			必ず復習・解答						
	2	【演習問	問題】	文字	字式の計算	算 1次方程	式		□の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を						
	3	【演習問	問題】	文章	字式の計算	算 1次方程	記入して担当教員に提出すること。								
授業計画	4	【演習問	問題】	比值	列と反比例										
	5	【演習問	問題】	比值	列と反比例	列 比例と反	比例の利用								
	6	【演習問	問題】	平同	面図形				1						
	7	【演習問	問題】	空	間図形										
	8	【演習問	<b>引題】</b>	総食	合演習 ま										
	(1) する		況(	(2)受	講態度∙∶	意欲 (3)課	段題の提出 リ	以上の内容を	総合的に判断	し R評価(F	]、不可)で判断				
						言語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合				
		出	席物	犬況					0		60%				
評価方法		受講	態度	•意名	次	0	0				30%				
		課	題の	提出		0	0				10%				
履修上の注意	6	0%出席	を単	i位付	与条件と	する									

科目名	E	BIM 専攻 I A(選択)												
科目名(英)	E	Building	; Inf	orma	tion Mod	eling I	Α							
単位数		1 <u>i</u>	単位		時間	間数	15B	寺間	担当者		道脇 力			
実施年度		2019	9年度	Ę	実施	実務家教員 担当科目	l	0						
対象学科•学年	3	建築系共	通											
授業概要		・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。												
授業形式	講	義:		演習	T: 0	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△			
***************************************	言語 情報	知的 運動 技能 技能		その他		目標								
		0												
学習目標 (到達目標)		O       モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。         O       材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。												
(到在日本/		0		1	M貝、レング	リングの	設定を行い、	ハースを作	以することかり	: <del>డ</del> ి సం				
テキスト・教材 参考図書	4	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)												
	回数					項目•内?	 容			授業外学修	 指示			
	1	вімо	及来頃日・内谷 「技業が子修行が BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」 「テキストを見て予習を行うこと											
	2	モデル	 入力「	 「ドア、	窓、スラブ、	階段、オ	前回の復習を行うこと							
	3	モデル	 入力「	 2階、	3階、屋上の	の作成、:	前回の復習を行	うこと						
	4	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」   「前回の復習を行うこと   モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」   前回の復習を行うこと												
	5	課題1:モデル再入力「1階、2階」 前回の復習を行うこと												
	6	課題1:	 モデノ	ル再プ		上、レイ	前回の復習を行うこと							
	7	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」												
授業計画	8	プレゼンテーションボード作成「データ提出」 前回の復習を行うこと												
	9													
	10													
	11													
	12													
	13													
	14													
	15													
	(1) する		況 (:	2)受詞							可、不可)で判断			
		<b>3</b> %	<del></del>		言	語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
   評価方法			表·竹 関提				© ©		0		50% 50%			
町川ノルム		中本	(尼)	<u>:ш</u>			•		0		30/0			
履修上の注意		出席が60	)%に	満たな	ない場合は、	単位を記	認めない。							